

久喜市議会平成25年2月定例会
市政運営並びに予算編成の基本方針
に対する代表質問

平成25年2月24日（日）

順番	会派	議員名	質問時間
1	飛翔	梅田修一 議員	30分
2	政策会議	春山千明 議員	20分
3	公明党 久喜市議会議員団	矢崎 康 議員	20分
4	日本共産党 久喜市議団	石田利春 議員	20分

目 次

【飛翔】

梅 田 修 一 議 員	1
-------------------	---

【政策会議】

春 山 千 明 議 員	4
-------------------	---

【公明党久喜市議会議員団】

矢 崎 康 議 員	7
-----------------	---

【日本共産党久喜市議団】

石 田 利 春 議 員	11
-------------------	----

【 飛翔 】

梅田 修一 議員

1 安全安心なまちづくりについて。

(1) 防火防犯体制の強化について。

年末から市内において不審火による火災が頻発しています。また小中学生を狙った不審者の出現など、市民生活が脅かされています。久喜市として防火防犯の強化をどのように図っていくか伺います。

(2) 本庁舎の耐震化の総予算と完成までの工程について。

本庁舎の耐震化の予算が計上されておりますが、耐震化が実現するまでの総予算と財源の内訳を伺います。また耐震工事完了までのスケジュールと耐震化後の耐用年数について伺います。

(3) 「とねっと」の活用について。

鳴り物入りでスタートした地域医療ネットワークシステム「とねっと」ですが、短期間で成果をあげられるようなものではないと考えています。十分普及しているとは言いがたい現状で、新たな活用手法、啓発を図っていかなくては完全に宝の持ち腐れになる懸念がありますが、今後の展開について見通しを伺います。

(4) 地域医療体制の充実を図ることについて。

医療情報を共有することも大切であります。市民の生命を守るためには、中核病院の機能強化が必須であります。特に久喜総合病院は開院後、継続して医師不足、看護師不足により十分に機能を果たしているとは言いがたい状況です。久喜市として、医師、看護師の確保を支援するなど、てこ入れを図るべきであります。現状認識と方向性について伺います。

2 子どもや高齢者等にやさしいまちづくりについて。

(1) 子ども・子育て支援事業計画の策定について。

子どもを生み育てやすい環境づくりを行う子育て支援は久喜市の喫緊の課題とあります。久喜市として地域の子育て支援体制を適切に整備するために「子ども・子育て支援事業計画」を策定する予定ですが、内容について伺います。

(2) 保育サービスの充実について。

病中病後児保育の実施や潜在的な保育ニーズを充足する施策が求められています。改築中であった「すみれ保育園」の開園や「さくら保育園」の建設着工など施設整備が進められる中、充足される保護者の意向に沿った保育サービスとは具体的にどのようなものか伺います。

(3) 公共交通の運用見込みについて。

久喜地区のみで運行されている市内循環バスを菖蒲東部地区及び鷺宮南部地区に延伸するとあります。市内循環バスの具体的な運行ルートと延伸のスケジュールについて伺います。また自宅からあらかじめ定められた目的地で乗降するデマンド交通を菖蒲地区及び栗橋・鷺宮地区で整備する予定ですが、デマンド交通の具体的な運用形態について伺います。

(4) 小中連携の取り組みについて。

久喜市の特色ある教育施策として小中連携が挙げられています。一貫した指導方針のもとに連続性のある学びができるよう、小中連携にどのように取り組んでいくか伺います。

(5) 学校教育における総合的な人間力とは。

学校教育においては、一人ひとりの子どもが個性を伸ばし、総合的な人間力を身につけることを目指すとあります。この理念が久喜市教育振興基本計画の基礎になるのでしょうか、総合的な人間力の定義について伺います。

(6) 東京理科大との関わり方について。

昨年は東京理科大久喜キャンパスの大幅縮小が明らかとなり、久喜市としては大変残念な状況となりました。子ども大学の実施などで、久喜市の教育事業との連携は図られているが、今後のキャンパスの利用に対しては久喜市として継続して協議するべきであります。久喜市の方針を伺います。

3 快適で活力あるまちづくりについて。

(1) 基幹道路の整備について。

合併後のまちづくりの大きな柱である3本の基幹道路の整備について伺います。仮称、西堀・北中曽根線、鷲宮産業団地・青毛線及び佐間・八甫線、久喜駅東口大通りの延伸である東停車場線の整備がどのように進められるか大枠をお示しください。

(2) バスターミナルの整備について。

圏央道の開通が迫り、交通の利便性が飛躍的に向上します。久喜市を中心とした人の流れを作り、交通の要衝としての付加価値を高めることが久喜市の発展に直結します。そのためにはバスターミナルを整備する必要があると思いますが、方針を伺います。

(3) 鉄道の輸送力強化と新幹線新駅設置について。

圏央道の開通や市内幹線道路の整備により、本市の道路網については交通の利便性が図られることとなります。あわせて久喜市民の切実なる、喫緊の課題は、宇都宮線の輸送力の増強です。東京駅の乗り入れが予定される中、より強い交渉が求められます。始発・最終電車の利便性向上を是非実現していただきたいところですが、取り組み方針について伺います。また、県内有数の乗降客数を誇る久喜駅に新幹線の新駅を設置し、県東北部の中核都市としての機能を強化すべきだと考えますが方針を伺います。

(4) 本多静六記念館の活用について。

久喜市の誇る偉人である本多静六博士の記念館が4月にオープンします。教育現場で、記念館をどのように教材として活用していくか伺います。また、埼玉3大偉人が定着していますが、本多静六博士を含めて4大偉人として市内外に発信し、観光資源として活用していくべきであります。方針について伺います。

4 市民から信頼されるまちづくりについて。

本庁舎の機能分散について。

合併後の本庁舎の執務環境の悪化は目に余るものがあります。旧幸手保健所久喜分室の跡地利用だけでなく、各総合支所の空きスペースの活用も含めて思い切った機能分散を図り、職員の執務環境を整えるべきと考えますが、具体的方策について伺います。

5 平成25年予算編成の基本方針。

安全で調和のとれたまちづくりについて。

インフラの老朽化対策について。

橋梁の老朽化について、計画的な整備を行っていくため「橋りょう長寿命化修繕計画」を策定するとありますが、計画のガイドラインについて伺います。また橋りょう以外のインフラについてはどのように老朽化対策を進めていくか伺います。

6 平成25年予算編成の基本方針。

地域の産業が元気で、多彩な企業が集積する豊かなまちについて。

(1) 久喜市の農業振興策について。

平成25年度に「久喜市農業基本条例」を制定する予定となっておりますが、条例を制定した後、久喜市の基幹産業である農業の振興施策をどのように展開していくか、伺います。

(2) 新市の一体感を醸成する取り組みについて。

各地域のまつり、イベントに引き続き補助金を交付し、新市の一体感を醸成するとあります。今までと同じことを行っているはなかなか新生久喜市としての一体感の醸成は難しいのではないのでしょうか。合併4年目で、久喜市の一体感を醸成するための具体的な方策を伺います。

7 平成25年予算編成の基本方針。

行財政を見直し、改革を進めるまちについて。

(1) 人件費削減に対する考え方について。

持続可能な行政サービスを提供していくために、普段の経費削減の取り組みを実施していくとありますが、久喜市の職員の人件費についてはどのような方針であるか伺います。

(2) 久喜市が中核市を目指す方向性について。

国や県の地方分権の中で、権限移譲を積極的に受け入れるということです。政府の方針により中核市への移行要件が緩和される見通しであります。県東北部の中心として更なる総合行政を標榜し、是非とも久喜市として将来の中核市を目指していただきたいが方針を伺います。

【 政策会議 】

春山 千明 議員

1 市政運営の基本方針に関して。

- (1) 新市基本計画を具現化すべく一体性をもった政策をすすめてきたこの3年間でしたが、実際には、一体性をもって政策を進めるべきものと、必ずしもそうとは限らないものがあることがわかってきました。一体性をもつものとそうでないものを峻別するべきだと考えますがいかががお伺いします。
- (2) 「均衡ある発展と一体性を速やかに確立していく」ための具体的施策は峻別した上で進めるべきですが、平成25年度1年間においてどのように、またどこまで進めていくのかお伺いします。
- (3) 方針の中で「地域の一体感醸成という点では未だ十分とは言えない」と言っています。その状況の具体的見解とさらなる醸成の取り組みを加速させるとは、何をどうしていくのか具体的にお答えください。
- (4) 平成25年度の市政運営は「久喜市総合振興計画」にもとづくのとあります。

「久喜市総合振興計画」における久喜市の将来像は『豊かな未来を創造する個性輝く文化田園都市～人と愛、水と緑、市民主役のまち』としていますが、新年度の重点政策の中には残念ながら基幹産業とした農業、緑広がる自然環境に関しての政策が見当たりません。

田園、水、緑は久喜市の誇る基幹産業と自然環境です。何よりも大切にしていかななくてはならない重要ポイントだと考えます。新年度においても重点政策の中に盛り込むべきだと考えますが、なぜ謳わなかったのかお伺いします。

2 リーディングプロジェクトに沿った重点政策の中の「第一、安全・安心なまちづくり」より。

- (1) 「久喜市地域防災計画」の中で久喜市と久喜市医師会との連携がありません。久喜市と久喜市医師会の連携体制を早急に整えて、計画の中に盛り込んでいくべきですが、いかがにお伺いします。
- (2) 久喜市では今年度、本庁舎をはじめ集会所などでも施設の耐震化は進められていきます。国からの補助などにより前倒しで進めていくべきと考えます。久喜市建築物耐震改修促進計画の目標年度の平成27年度までには全て完了予定としている公共施設耐震改修工事の進捗状況と計画をお示し下さい。
- (3) 安全、安心なまちづくりには、認証取得はしないまでもセーフコミュニティの考え方を取り入れる事が大変重要だと考えます。市長の見解をお伺いします。

3 リーディングプロジェクトに沿った重点施策の中の「第二、子どもや高齢者にやさしいまちづくり」より。

- (1) 現在、交通空白地帯に住む、特に高齢者の生活の足として期待されている市内循環バスの延伸とデマンド交通導入は、その対象地域の方々の本当のニーズとは一部ずれがあるとも言われています。今後は定期的に循環バスとデマンド交通の路線や運行状況を同時に課題検証と見直しを図り、久喜市全体として有用な循環バス運営とデマンド交通とするべきですが、市長の見解をお伺いします。

- (2) 安倍新政権において教育再生は、経済再生と並ぶ最重要課題とし、教育再生実行会議を発足させスピード感のある教育改革を進めるということです。検討課題はいじめや体罰、また教育委員会改革等です。国が問題としている教育関係の課題を久喜市長はどう考えるかお伺いします。
 - (3) 久喜市の教育に関してする「一体化」において、難しい状況もあります。懸案事項の学期制はなるべく早く統一するべきですが、学期制検討委員会では検討時間が長くなっている現状です。先日の学期制検討委員会で、学校や保護者などのアンケートの結果から検討した内容は、ほぼ3学期にするべきとの方向性がやっとみえてきました。そのような中、田中市長としても教育に関する自らの意思と責任を明らかにし、明日の教育の方向性を示すべきと考えますが、いかがかお伺いします。
 - (4) 学校間において音楽会等のさまざまな行事が年間を通して行われています。合併後、市内全体で行う事になり規模が縮小された行事があります。学校数が増え、拡大されるべき行事も主催する側の都合で子どもたちの経験の機会が縮小されてしまっている現実是由々しき事態だと考えますが、市長の見解をお伺いします。
 - (5) 教育における政治の役割として、まず学校の環境整備が第一で、学校間の格差をなくす事が重要だと考えます。さらに教員の資質向上を図ると共に補助的教員などの量的拡充も不可欠となっています。田中市長としての考え方を伺います。
- 4 リーディングプロジェクトに沿った重点政策の中の第三「快適で活力あるまちづくり」より。
- (1) 久喜市では、交通の利便性や流通の優位性が高まり、今後もさらに優良企業の誘致促進に期待をしますが、企業誘致は、地域における産業振興だけでなく地元雇用の促進に関する優遇措置など、市内就業率向上など地元からの雇用確保を確立させる大きな目的もあります。現時点でその取り組みの達成度をどのくらいと考えるかお伺いします。もし課題があれば今後進めるにあたっての計画をお伺いします。
 - (2) 活力あるまちにするために、観光商業イベントは交流人口拡大に結び付き地域の経済効果、活性化に多大な効果があります。その多くの観光資源こそ久喜市の一体化を進めるキープポイントだと考えます。活気ある久喜市にしていくための観光商業のさらなる促進（拡大）をするべきですが、市長の見解をお伺いします。
 - (3) 大規模商業施設と既存の商店街や個人商店との問題はまちづくりの視点からもさまざまな憂える状況があります。ひとつに大規模商業施設出店の影響を受ける商店街の衰退化や買い物に行きにくい高齢者等を抱える地域ニーズにどう答えていくのか等があります。久喜市の地域づくりを考えたときに、市長は大型店と商店街のバランスをどう考えるか、市長の見解と問題解決のための計画をお伺いします。
 - (4) 大規模商業施設出店に伴い、近隣の交通渋滞や騒音、廃棄物などの問題における周辺環境問題があります。大型店と地域住民への影響をどう考えるか、市長の見解と問題解決のための計画をお伺いします。

5 リーディングプロジェクトに沿った重点政策の中の第四「市民から信頼されるまちづくり」
～行政改革大綱に基づき～より。

(1) 健全な財政運営の推進を図るための平成25年度の予算編成は、行政改革大綱に基づき安定したものにしていく事だと思えます。平成24年度の施政方針で市長は、「市税収入など一般財源収入の大幅な増加は期待できず、厳しい状況から脱却できない状況」としました。

しかし平成24年度法人税は今議会で当初予算のほぼ倍額の補正を組みました。これだけの補正額を年度最終で合わせるという運営の仕方は、「固く見積もった」という限度をはるかに超えています。新年度予算書は当初予算との比較でありますので、あまりギャップの大きさはわからなくなっているせいか、新年度の歳入予算に関しても市長は「市税の確たる増加は期待できず厳しい状況」として、平成24年度と同じように固く見積もっているようです。実情をきちんと反映した予算を組むべきですが、市長の見解をお伺いします。

(2) 読み違えともとれる平成24年度の法人税に対する予算組みと同じようなことにならないように、反省点として平成25年度にしっかり反映させ、久喜市の予算編成は市民に対し不審感や不安感を仰ぐものではなく、見通しをしっかりとって信頼のある予算編成を目指すべきですが、いかがかお伺いします。

(3) 行政改革の中で行政経営を効果的・効率的に進めるため市の責任と適正な監督のもと行う「選挙事務の人材派遣導入」の検討や、公共施設の中で、市の直営で管理運営するよりも市民サービスの向上や経費の削減が期待できる施設は「指定管理者制度」を適正かつ有効的に推進するべきですが、平成25年度は取り入れていくのか市長の考え方を伺います。

(4) 現在の多様化する市民ニーズに応えていくための組織機構整備は時代に沿ったものとしていくことが大切です。4地区同じように市民サービスを提供できるようにしていくための職員教育を充実させた上での組織改編は、平成25年度どのように取り組んでいくのか市長の考えをお伺いします。

(5) 行政改革のひとつとして、今や必須となっているシティーセールスやパブリシティの推進はこの3年間あまり行われてきていないように感じます。今年度こそは久喜市の魅力を広域的に発信していくべきと考えますが、市長の見解をお伺いします。

(6) 事務事業の効率化として職員提案制度や行政事務の専決権限を下位職に委譲する取り組みをさらに推進するべきですが、現在の状況と平成25年度の取り組みをお伺いします。

(7) 職員の能力向上や意識改革は久喜市の行政改革に無くてはならない取り組みですが、市長の考えと平成25年度の取り組みをお伺いします。

(8) 職員定員の適正化の市長の考え方を伺います。

(9) 職員の時間外勤務は部署によって大きく差が生じている現状があります。時間外勤務の時間は上限を決め、部署による時間外勤務のアンバランスの解消を目指すべきですが、市長としての見解をお伺いします。

【 公明党久喜市議会議員団 】

矢崎 康 議員

1 市政運営の基本方針の編成について。

田中市長は、自治基本条例のもと更なる地域の一体感の醸成に向けた取り組みを加速させ、久喜市総合振興計画、都市計画マスタープランの策定等を進めてこられました。本年はこの久喜市総合振興計画の1年目の重要な年でもあります。この重要な年の市政方針の作成に当たって合併後3年間の成果と課題についてどのように検証されたのかまずお聞きいたします。

2 行財政を見直し、改革を進めるまちについて。行財政改革大綱。

- (1) 行政改革大綱を着実に実行されるとありますが、24年度から改革意欲のある人材の育成や職員の意識改革を図るため、職員の創意や知識を生かすべく職員提案制度を導入されましたが、現在まで何件提案されているでしょうか。また提案に対して市長はどのように対応され、やる気を育てているか。
- (2) 合併した市として大事なのが職員の一体感の醸成であります。どう図られ取り組まれるか。職員の方々の力をいかに引き出し発揮してもらうには、職員のやる気をどう引き出すことができるかが大切。信頼される初代市長として最終年度にかける決意を伺う。
- (3) 団塊の職員が退職されるこの激変への対応を、OJT、再任制度の活用等を考えているようですが、今年1年しっかりとした取り組みをしていかないといけないと考えます。市長はどのようにお考えでしょうか。
- (4) 久喜市は女性管理職が少ないので、課長補佐級以上への女性登用を進めていただきたく女性職員への定期的なヒアリングの実施をしてはどうでしょうか。
- (5) 個人としてのキャリアに偏りが無いような仕事のローテーション、女性はやりたがらないという理解を前提として、男性に任せてしまう傾向にあるのではないかと、考えます。女性職員にもっと力を発揮していただけるよう今までにない取り組みを願うところであります。市長のお考えをお聞かせください。
- (6) 女性職員の場合仕事の機会の偏りから能力開発が育成されず、結果として評価されないため、昇進に関し不平等を生じている可能性もあるとの指摘があります。人事評価制度については本年度試行的取り組みを開始し、本格実施に向け、評価、検証を行っているところと認識致している。25年度は、どのような視点で本格実施されるのか。
- (7) 能力開発の機会と人事評価は、密接に関係し、この人事評価結果を本人へ開示することによって能力実績の結果だけではなく、仕事の機会・内容は平等だったのかなどを話し合うこともできるといわれている。これらを取り入れ人事評価制度確立による女性の活用と能力開発を是非検討していただきたい。お考えを伺う。
- (8) 総合振興計画では、行政改革の推進の施策に窓口サービス向上に努めるとともにワンストップの充実が掲げられております。他市では、市とハローワークによる生活保護受給者をはじめとする生活困窮者に一体的支援を実施しているところがあります。是非、市民に身近な市役所で福祉から就労までの支援をワンストップで実現していただきたいがお考えをお聞きいたします。また、市は本年度どのような就労支援を考えているか、明らかにしてください。

3 快適で活力のあるまちづくりについて。

(1) 企業誘致による雇用創出。

ア 優良企業の誘致において雇用の創出がありますが、本年4月からは、障がい者雇用率が2%となります。障がい者に潜在的能力がないわけではなく、社会的に能力を制限されていると思っています。健常者がその姿を見て自分も頑張ろうとする力が湧いてくる。そのことこそが私は大切であると思っていますがどうおもわれますか。

イ 25年度の障がい者雇用率向上につながる取り組みが必要と考えますがお考えを伺う。

(2) 商店街活性化。

国の補正予算では、中小企業活性化施策も充実していると伺っています。ものづくり中小企業の試作開発支援や、資金繰り支援、経営支援型のセーフティネット貸付も新たに設けるなどとしています。これらを有効活用するため具体的には市は商工会など支援機関とどういう対応をしようと思っていますか。25年度の具体的な対応をお示しください。見解をお尋ねいたします。

(3) 地域一体化の道路整備。

新市の一体感の醸成に付すべき幹線道路、仮称産業団地・青毛線道路整備事業・680号線等は非常に大事な道路であり、本年はその取り組みを加速させるべきと考えますが取り組みについて伺います。

4 安全で調和のとれた住みよい快適なまち。

(1) 「橋りょう長寿命化修繕計画」。

政府は一般会計総額9兆6千1百15億円の25年度予算案と、24年度補正予算案との一体的な「15か月予算」と位置付け日本経済の再生へ切れ目のない対策の実行を目指しています。具体的には公明党が掲げる命を守る「防災・減災ニューディール」の考えが反映されました。

ア 25年度の道路・橋りょう等の点検整備事業の推進は、どのように取り組まれるか。

イ 「橋りょう長寿命化修繕計画」の策定をして行くといわれました。この計画による信頼性と必要性の理解につながるようにトータルコスト削減額を公表してはいかがか。

(2) 公共下水道事業。

下水道の整備促進は市民の長い年月待ち望んでいることであります。特に栗橋・鷲宮地域は市街化区域内が平坦で勾配差がないため浄化槽から流れた水が長く留まり、悪臭が漂って住民生活に支障を及ぼしています。できるだけ早急に下水道事業の推進が望まれるところです。市長の考えをお聞きいたします。

(3) 液状化被害。

東日本大震災により液状化被害を受けた南栗橋地区住民に対して久喜市被害者住宅再建支援制度の申請期限が平成28年度まで延長し住宅再建が支援されたことは評価いたします。

ア 25年度再液状化を防止するための対策事業として南栗橋スポーツ広場を利用し、地下水位低下工法の実証実験を実施し、液状化に有効な対策が行われるが、どのようなスケジュールで行うのかその取り組みについて明らかにしてください。

イ この実証実験が液状化に有効なものとしなければ多くの賛同をいただくことはできない。しっかりと取り組みそして、大災害を乗り越えた街として誇れるように尽力いただきたいと思いますが市長の決意を伺う。

(4) デマンド交通。

ア 住みよい快適なまちの実現のためのデマンド交通ではありますが、成功裏にしなければならぬと考えます。そこに課題も見えます。その解決策も見出すことができるものと考えます。運行への意欲をお聞きいたします。

イ デマンド交通が本格稼働された場合、運転免許証の早期返還、疾病により運転の制限がある方に対しては、デマンド無料パスポート券を発行する考えを持たれてはいかがでしょうか。お考えをお聞きいたします。

(5) 通学路安全対策

ア 幹線道路の開通により人、車の流れの変化に対応し通学路の安全が確保しきれていない現状があります。まちづくりを道路建設で良しとせず、通学路の安全確保等もセットで考えるべきであります。今後の新設道路についてどう考えますか。

イ 通学路の安全対策においてスクールガードリーダー等のボランティアの方々の意見、地域からの要望等はどのように吸い上げ対応されてきているかお尋ねします。

ウ 国土交通省は通学路における緊急合同点検の取り組み状況を発表し、この中で道路管理者による対策箇所等を公表することが求められております。久喜市において住民、学校関係者の意識が高められ、そのうえで対応箇所が計画的に改善され、一過性の対応で終わらせない継続的な体制構築に向けた取り組みをホームページにおいて公表すべきと考えますが、いかがかお考えを聞かせください。

5 子どもから高齢者まで、誰もが健康で安心して暮らせるまちについて。

(1) 女性の命を守る子宮頸癌予防ワクチン接種と検診は車の両輪です。25年度国は罹患率の高い年代の一部に、HPV検査を実施することが新たに盛り込まれました。細胞診とHPV検査の併用検診を実施することで、見落としを減らし次の受診までの間隔を延ばせる効果があります。細胞診とHPV検査の併用検診を早期に導入し一層の支援強化に努めていただきたいが、どう検討なされたのか伺う。また補正で予算計上することも可能ではないかと考えますが如何でしょうか。また25年度の受診率向上へ向けた具体的な取り組みについて伺います。

(2) 予防接種は、未来ある子供たちの命と健康を守る立場から、100%の接種率が望ましいと考えています。子宮頸癌ワクチンにおいては72%から78%台へ伸びていますが、接種率の目標をどのくらいに考えていますか。お聞きいたします。

6 心豊かな人材を育み、郷土の歴史文化を大切にするまちについて。

(1) 国は学校耐震化に関し、公立小中学校の耐震化率を94%まで引き上げるとしています。

24年度は学校耐震化に対して前倒しの予算編成で事業に当たられてきた。25年度も「地域経済活性化・雇用創出臨時交付金を活用することによる学校施設環境改善交付金事業の前倒しについて検討はどのようにされたのかお伺い致します。

(2) 公立小中学校の耐震化率を早期に100%にすべきと考えますが新年度はどう取り組まれますか。お伺いいたします。

7 子どもや高齢者にやさしいまちづくり。

(1) 子育て支援充実。

妊婦健康診査の公費助成が安定的・継続的に実施されることにより、安心安全に妊娠し出産できる環境づくりが大きく推進されてまいりましたが本市における平成23年度の合計特殊出生率は1.09と、全国平均の1.39を下回っており子どもを生み育てやすい環境づくりを行う子育て支援の充実は久喜市の喫緊かつ重要な課題であります。

ア 合計特殊出生率1.09を、向上させるとともに子育てしやすいまちをめざすことをこれからのまちづくりの基本にしていくべきではないでしょうか。考えを伺います。

イ 宇都宮市で行われていたような若者に結婚前の自分磨き講座を開設してはいかがでしょうか。独身の男女を対象に自分を高める講座のことで、結婚相手を見つける前に社会人としての常識やマナーを身につけてほしいとの考えであります。出会いの場を提供するのではなく、子育てや貯蓄の方法など、結婚生活への意識を高めてもらうのが目的です。婚活の推進や、現在婚活を実施されている社協と連携を強めて推進すべきと考えます。市長のお考えをお聞きします。

ウ 結婚されてからの課題に不妊・さらに不育症に対する問題があります。市独自の助成もご検討すべきと考えますがいかがでしょうかお考えを伺う。

エ 市長は25年4月1日から、入院・通院ともに、中学3年生まで無償化と大きな決意をされました。若いお母さんがたに久喜市は住みやすく、子育てしやすい街であること又子育てを応援していることを市長はもっとアピールすべきであると思っています。久喜総合病院、栗橋済生会病院、昨年7月に民間で40床を抱える土屋小児病院が開院して医療環境も整いました。子育てしやすい街をもっとHP上で、アピールしていただきたいがお考えをお聞かせください。

(2) 学校教育。

学校教育、スポーツ教育は人間教育や人格形成の大切な場であります。体罰で人は育ちません。「人を育てる」という観点から運動部の運営がされるよう対策を講じなければならないと思いますが、学校の先生及びスポーツ指導者の質の向上、意識変革、体罰の禁止徹底に向けた取り組みについてお考えをお聞かせください。

8 自然とふれあえる、環境に優しいまちについて。

公明党は「都市鉱山」とも呼ばれる小型家電に含まれる貴重な貴金属やレアメタルを取り出して再利用すべきと提案をしてきました。

この使用済み小型家電リサイクル推進について伺いますが、現在環境省は、4月より導入予定のこの事業において、2～3月中に市町村向けに説明会を設ける予定になっています。回収ボックス等の設置費用、市民への広報費等の財政支援もされとうかがっている。久喜市においても宮代町との協議を重ね衛生組合として効率的な回収システムの構築について、早期に検討に着手し、このような時期を逸することなく、果敢に使用済み小型家電リサイクル推進事業を積極的に進めるべきと考えます。市長のこの事業に対する見解をお聞きいたします。

【 日本共産党久喜市議団 】

石田 利春 議員

1 平成25年度 市政運営の基本方針・国政の問題について問う。

- (1) 3年ぶりに民主党から自公連立政権へと政権交代があり、安倍内閣が誕生した。今、国民の暮らしはどうか、市長も述べているように、長引くデフレ不況から国民の所得はへり続け「閉塞感」が広がっている。日々の暮らしさえ危ぶまれ、生活保護の受給対象者は増加をたどっている。自殺者は年間3万人を超え異常な状況にある。日本共産党はこのような不況を脱出するには国民の所得を増やすことが必要で、不況の中でも、260兆円にも達している大企業の内部留保を賃上げや労働法制の改定により、社会に還流させることが重要であると提案している。内部留保の1%を使えば1万円の賃上げが可能との試算もある。不況の中、市民の暮らしをどのように守って行くのかが問われている。久喜市政が果たすべき役割について、どのような認識を持たれているか所見を伺う。
- (2) 市長は「日本経済再生に向けた緊急経済対策」及び「骨太の方針」の影響を注視し万全の対応を図るとしている。新政権は消費税を来年度8%に再来年には10%に増税しようとしている。消費税増税による税収は増えるが、経済の冷え込みから国全体の税収は大きく落ち込む。税の負担は応能負担を原則にすべきであり、低所得者ほど税率が高くなる消費税増税は中止すべきと考える。増税に対する見解と市民への影響をどのように認識されているか伺う。
- (3) 「骨太の方針」規制緩和策でTPP、環太平洋連携協定の交渉に参加するかが問われている。TPPは例外のない関税撤廃を原則としており、参加すれば久喜市の農業、医療など大きな影響が出る。市民への影響を考えればTPPに参加すべきではないとの態度表明をすべきと考えるがいかがか。

2 平成25年度 市政運営の基本方針・合併協定項目について。

- (1) 合併後の調整項目、国保税や水道料金など、市が徴収する公共料金は全体としてすべて値上げされ、菖蒲地区は合併前と比較すると全ての公共料金が値上げとなった。厳しさを増す市民生活を更に圧迫することにつながった。「合併効果」が発揮され、負担増にならないことを期待していただけに「合併していいことがない」との声が聞かれている。この声をどう受け止めるのか伺う。
- (2) 今後の調整項目について伺う。
 - ア 公共交通が再編されデマンドバスなど今年の夏にはスタートする。利用者の利便性を最も重要視すべきところ、タクシーなど、既存の事業者の利益と相反するとの考え方が強調され、利便性重視の施策が弱いと指摘せざるを得ない。運行開始後も利用者の意見を取り入れ、利便性の高い公共交通にしていくべきと考えるがどうか。
 - イ 学校給食の統一に向けた審議が進んでいる。一市三町で育てて来た学校給食の優れた部分を「統一」を理由に潰すべきではない。市の見解を伺う。
 - ウ 学期制の統一に向け、アンケートなども実施されて来たが、市民の合意形成を重視し強引な統一はすべきではない。今後の取り組みはどのようにすすめていくのか伺う。

- 3 総合振興計画・リーディングプロジェクト ①安全・安心なまちづくりについて。
- (1) 埼玉東部消防組合がスタートする。現場到着時間の短縮・消防隊員の増強が確保されるとしているが、消防力の基準見直しにより、隊員の減少が懸念される。隊員の減少となれば、現場到着時間短縮に逆行する。隊員の減少はないと保障できるか伺う。
- (2) 久喜市地域防災計画が見直しされ、防災ハザードマップを作成するとしている。液状化対策を盛り込む必要がある。概要を伺う。
- (3) 東日本大震災での深刻な被災、原発事故に対応する施策について伺う。
原発を稼働することにより出る「使用済み核燃料」の最終処分する知恵をわれわれ人類はまだ持ち得ていないし、日本はすでに飽和状態となっている。原発事故を受け、放射能の恐ろしさを改めて認識した。放射能汚染は市民生活にも大きな不安を与え続けており検査などの対応は今後も引き続き必要と考える。その決意は。又、原発稼働はただちに中止し、自然再生エネルギーへの転換を決意すべきと考える。市長の見解を伺う。
- (4) 「とねっと」の更なる普及は必要であり、普及促進に向けた取り組みについて伺う。
ア 「とねっと」の普及が医療資源の有効活用となり、救急救命や、医療費の削減につながる事が重要である。これらは医療の関係機関や行政などとの継続的な連携体制が欠かせない。連携体制の構築はどのように考えているか伺う。
イ 県の構築事業費補助金が平成25年度までは出る。その後の財政措置をどのように考えているか伺う。
- 4 総合振興計画・リーディングプロジェクト ②子どもや高齢者にやさしいまちづくりについて。
- (1) 子育て支援の充実について伺う。
ア 「子ども・子育て関連3法」は保育の公的責任を後退させ、事業者との「直接契約」、株式会社参入の緩和、認可保育所への国・自治体への設備整備補助金を廃止するなど問題点が多い。この国の指針に基づく「子ども・子育て支援事業計画」策定に着手するとしているが、本当に安心して預けられる保育環境や正規の保育士確保による待遇改善などをどのように進めていくのか伺う。
イ 「子育て支援課」のみで対応していける課題ではない。関係各課の連携が必要と考える。仮称「子育て支援プロジェクトチーム」の創設など検討すべき。
- (2) 子ども医療費無料化の支給対象年齢を、通院分も中学卒業まで拡大したことは高く評価するところである。更に、先進自治体に学び高校卒業まで拡大することが求められている。「子育てするなら久喜市で」と胸が張れるよう取り組むべき課題と考えるがどうか。
- (3) 「いじめ」は不幸な死に至る場合も考えられる深刻な問題。実態を公開し、学校全体で取り組むことが求められている。「いじめ」をなくし、生まない取り組みはどうか。
- (4) 子育てしやすい環境づくりは重要としている。支援の充実は温暖化の影響から、夏の暑さは厳しさを増している。学習力向上の上からも、小中学校の普通教室にクーラー設置を検討すべき。又国にも財政支援を求めるべきと考えるが、いかがか。
- (5) デマンド交通がスタートする。障がい者など、各施設への通所する際、足の確保は重要な課題。今後の取り組みは。
- (6) 子ども大学を実施していくとしているが、東京理科大学の縮小が打ち出されている。久喜市の今後の取り組みを伺う。

- 5 総合振興計画・リーディングプロジェクト ③快適で活力のあるまちづくりについて。
- (1) 地域一体化を促進する道路整備計画が具体化されて来ているが、市民の日常生活に直結する生活道路の整備が重要。舗装整備など含めた市の計画はどうか。
- (2) 大型店の商業施設進出により、地元商店の閉店など見られる。地域商店の発展継続をどのように進めていくのか。
- 6 平成25年度 予算編成の基本方針 ①国の予算と予算概要について。
- 市長は、地方財政は国の政策の影響を強く受けることから、国の状況を注視していくとしている。国の予算で特に問題だと考える点について、見解を伺う。
- (1) 地方公務員の給与削減が打ち出され、地方交付税8504億円の減額が打ち出されている。人事院勧告に基づき進めて来た地方公務員の給与を、国家公務員給与を下げたから、下げろというのは問題である。景気対策の上でも働く国民の所得を増やすべき時であり、逆行していると考え。市長の見解を伺う。
- (2) 生活保護費を3年間で740億円削減、生活保護の扶助基準の引下げを打ち出している。不況が深刻化する中、受給を必要としている人が増加している。実際には、受給資格の内2割しか受給していないのが現状である。生活保護の受給は、憲法25条で保障された権利であり最後のセーフティネット。最初から予算削減を打ち出すことは、国民を死に追いやることにつながる。削減はゆるされない。市長の見解を伺います。
- (3) 平成24年度の補正予算「元気臨時交付金」総額1兆3980億円が交付される。新年度の建設事業の新たな財源とすることができるもので、平成25年度の建設事業など前倒しをするなどすれば、一般財源分を他の事業、福祉サービスに活用できる。取り組みを伺う。
- 7 予算編成・歳出における重点施策 ①市民参加し地域コミュニティ豊かなまちについて。
- 久喜市ではこれまで女性議会、子ども議会が隔年実施されて来た。青年議会、高齢者議会なども検討して良いのではないかと、見解を伺う。
- 8 歳出における重点施策 ②歳出における施策・自然とふれあえる環境に優しいまちについて。
- (1) 様々な自然再生エネルギーを活用すれば、原発の40倍以上のエネルギーを賄うことができる。太陽光発電は晴天率の高い久喜市には有効な施策であり、飛躍的な取り組みを進めるべきと考えます。その視点から伺う。
- ア 太陽光発電システム設置支援予算を平成24年度よりも増額する。評価するところです。補正なども考慮し、希望者全員に補助金が行き渡るようにすべき、又、設置に伴う金利支援や、先進地の事例を学び積極的な施策を検討すべき、いかがか。
- イ 設置にあたっては、地元企業との結合をはかり地域循環型経済を発展させるべきと考えますが、いかがか。
- (2) 地球温暖化防止にもつながる、緑の保全について伺います。
- ア 市内の大木が開発などにより失われている。栗橋地区においては、利根川の堤防強化事業が進められ、八坂神社内にある大木も倒される危機にあります。残念でなりません。国に財政的支援を求めるなど、市としても残す手立てを考えるべき。いかがか。

イ 「緑の基本計画」の策定に向け、現地調査、市民意識調査のまとめが行われている。その結果と生垣設置奨励金、樹木・樹林奨励金、緑のリサイクル制度、総合運動公園の自然林の取り組みなどさらに重視した位置づけをすることが必要とかがえるが、いかがか。

9 歳出における重点施策 ③子どもから高齢者まで誰もが安心して暮らせるまち。

- (1) 国保など特別会計予算は前年度比0.4%減となった。高くて払いきれない国保税については引下げを求める。国保加入者は、退職者や非正規労働者など所得の低い方の加入が多い。国保は社会保障である。それに見合った国の負担が求められているが、国は補助率を下げ低く抑えて来た。国保会計の厳しさの根本は国の責任が大きいものと認識するところであるが、国の後退から市民を守る立場に立ち、一般会計からの繰入を確保し引下げるべきと考える。見解を伺います。
- (2) 久喜市は、埼玉県の「健康長寿プロジェクト」のモデル市となった。施政方針では触れていないところですが、どのような施策が検討されるのか伺う。

10 歳出における重点施策 ⑤安全で調和のとれた住みよい快適なまち。

- (1) 東日本大震災によって液状化が発生し、大きな被害が出た南栗橋地域の復興は、久喜市にとって最優先課題。市の取り組みの基本姿勢を伺う。
 - ア 南栗橋地域の完全復興の姿はどのようなものと考えているか伺う。
 - イ 完全復興に至るまで、被災された市民によりそい支援をする決意があるか伺う。
- (2) 災害時における、久喜市医師会との連携はかかせない。日頃から災害時に備えたシミュレーションなどの取り組みが求められている。具体的な取り組みはどうか。
- (3) 東鷲宮駅周辺の利便性向上として、東西連絡地下道のバリアフリー化など評価するところであり早期の実現を求める。しかし、有料化となる自転車駐車場の整備や不要不急の西口停車場線延伸整備事業などは、市民合意が得られていない。再考する必要があるいかがか。
- (4) 橋りょうの老朽化対策として「橋りょう長寿命化修繕計画」の策定は評価するもの。15メートル以上の橋りょうについては、国が対応するとの報道があるが久喜市において該当する橋りょうはあるか。
- (5) 東日本大震災の被害に対し、久喜市被災者住宅再建支援制度の延長は評価するところです。他県からの避難者に対する減免措置についても継続すべきである。また、埼玉県に県独自の支援実施を求めることや、県から国に対して液状化被害対策に関連する支援制度の拡充を求めるよう要請すべきと考えるがいかがか。

11 歳出における重点施策 ⑥地域の産業が元気で多彩な企業が集積する豊かなまち。

- (1) 久喜市農業基本条例を制定し「人・農地プラン」を策定するとしている。新規就農者の確保のための一つ的手段として「明日の農業担い手育成成熟事業」が取り組まれて来た。取組状況はどうか。また、久喜市の農業が持続的に維持発展できるようにするには、何が必要と考えているか伺う。
- (2) 工業団地誘致などの促進で優良農地が縮小する。農業の継続発展をどのように位置づけていくのか。

1 2 歳出における重点施策 ⑦行財政を見直し、改革を進めるまち。

指定管理者制度について伺う。

(1) これまで、市の施設管理のみならず、指定管理導入が進められて来たが、これまで導入した指定管理で、市民に果たすべき本来の目的に照らし、市民へのサービスが低下しているところはないか。又、検証はどのように進めているか伺う。

(2) 指定管理者への移行により雇用の削減や賃金の低下は、市民への持続的サービス維持が低下しかねない要素である。検証していくことが求められている。いかがか。

1 3 平和で誰もが安心して暮らせる久喜市を。

「人間尊重・平和都市」宣言した。政権交代後、憲法や「集団的自衛権」などを見直す動きがある。しかし、特に憲法9条は、戦争を二度と繰り返さないという思いが込められた、アジアと世界に向けた「国際公約」でもある。だれもが平和で安心して暮らせるまちづくりは市政を担う市長の責務であると考えるところ、憲法をくらしに生かす姿勢を宣言し、久喜市が平和で誰もが安心して暮らせる久喜市をめざしていただきたいと考える。市長の見解を伺います。